

個人投資家様向け会社説明会

PILLAR 株式会社 **PILLAR**

(証券コード：6490)

2025年2月14日

代表取締役社長

岩波 嘉信

01 PILLARってどんな会社？

02 業績推移・業績予測・中期経営計画

03 株主還元

01

PILLAR ってどんな会社？



2024年5月 おかげさまで株式会社PILLARは

創業 **100TH** 周年を迎えました。



株式会社 **PILLAR**

日本ピラー工業株式会社は、株式会社PILLARへ

ロゴと社名を一新し、生まれ変わり、そして進化する未来へ



社名の由来

船舶の蒸気機関からの漏れを防ぐシール製品として、創業時に開発した「ピラーパッキンNo.1」の形状が、柱状（=P I L L A R）であったことから命名されています。

創業	1924年（大正13年）
代表者	取締役社長 岩波嘉信
株式	東証プライム（証券コード:6490）
資本金	49億66百万円
事業内容	流体制御関連機器製品の製造販売
従業員数	1,132名（連結:2024年3月末現在）
売上高	586億05百万円（連結:2024年3月期）

パーパス

“社会を支える”未来を創る

C L E A N	エネルギーを最小限に ベネフィットを最大限に
S A F E T Y	何よりも安全を いつでも安心を
F R O N T I E R	常に最先端へ もっと新分野へ

社 是

品	質	第	一
和	衷	協	力
一	歩	研	究

PILLAR歴史振り返り動画

【当社WEBサイト】
動画で見る
PILLAR



動画再生：PILLARの歴史紹介（3分間）

沿革

【当社WEBサイト】
沿革



PILLAR
CLEAN SAFETY FRONTIER

企業の歴史

1924

「日本ピラー工業所」設立



創業者
岩波嘉重

1967

三田工場竣工



2001

東証一部上場

2020

新・三田工場竣工



2023

福知山第二工場竣工



1948

株式会社に改組し、
「日本ピラー工業株式会社」を設立

1989

福知山工場竣工



2004

九州工場竣工



三田イノベーションセンター竣工



1920

1940

1980

2000

2020

1926

工業用パッキンの
本格的生産開始



1951

日本で初のメカニカルシー
ルを開発・生産開始



1932

自動車・船舶用の
ガスケット生産開始



1984

半導体製造装置向け
ふっ素樹脂継手を発売



2002

画期的なシール機構を
実現した継手を開発・発売



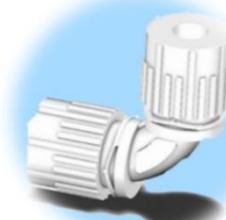
2012

半導体向けロータリー
ジョイントの生産開始



2021

次世代の高性能新型
継手を開発・発売



製品の歴史

数字で見るPILLAR（2024年3月期）

【当社WEBサイト】
数字で見る
PILLAR



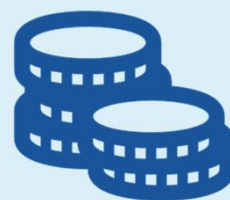
PILLAR
CLEAN SAFETY FRONTIER

連結売上高



586億円

連結営業利益



142億円

連結営業利益率



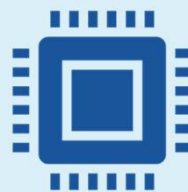
24.2%

2024年で創業



100年

継手の世界シェア



世界**No.1**
(半導体洗浄装置向け)

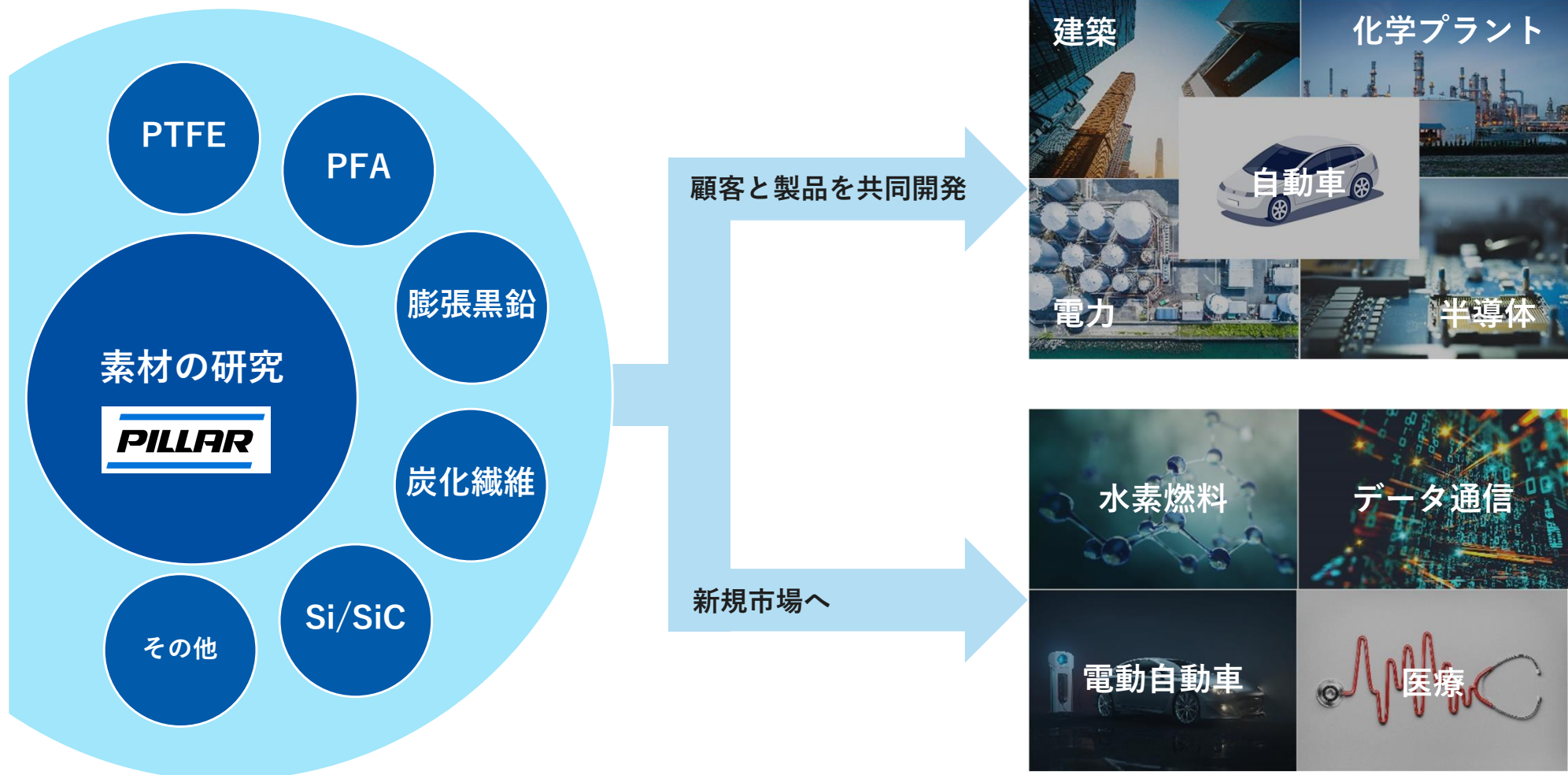
自己資本比率



70.8%

当社の強み① 100年磨いた素材開発力

- 100年にわたり液体・気体、高温・低温など様々な用途に合わせた素材を独自で研究・開発
- 素材の特性を知り尽くしているからこそ、様々なソリューションであらゆる顧客・市場に応え得る裾野の広さ
- 培った素材開発力を基にEV・水素・次世代通信（5G/6G）など新たな市場へ展開



- 電子機器関連事業では素材の特性を熟知し、技術力の向上により切削加工が一般的な製品形状でも射出成形化を実現
- 産業機器関連事業では3つのシーリング製品群で顧客ごとに流体ソリューションを提供し、顧客の課題を共に解決

ニーズに応じた製品を開発

電子機器関連事業

ハイテク市場向けに
ふっ素樹脂製の製品を提供



産業機器関連事業

メカニカルシール、グランドパッキン、
ガスケットの3つの製品群で
流体制御ソリューションを提供



素材の特性を熟知

射出成形、金型成形、
製品設計の技術力

素材の組合せ・加工

豊富な液体制御製品の
品揃え

顧客の
課題解決に貢献

当社の市場領域

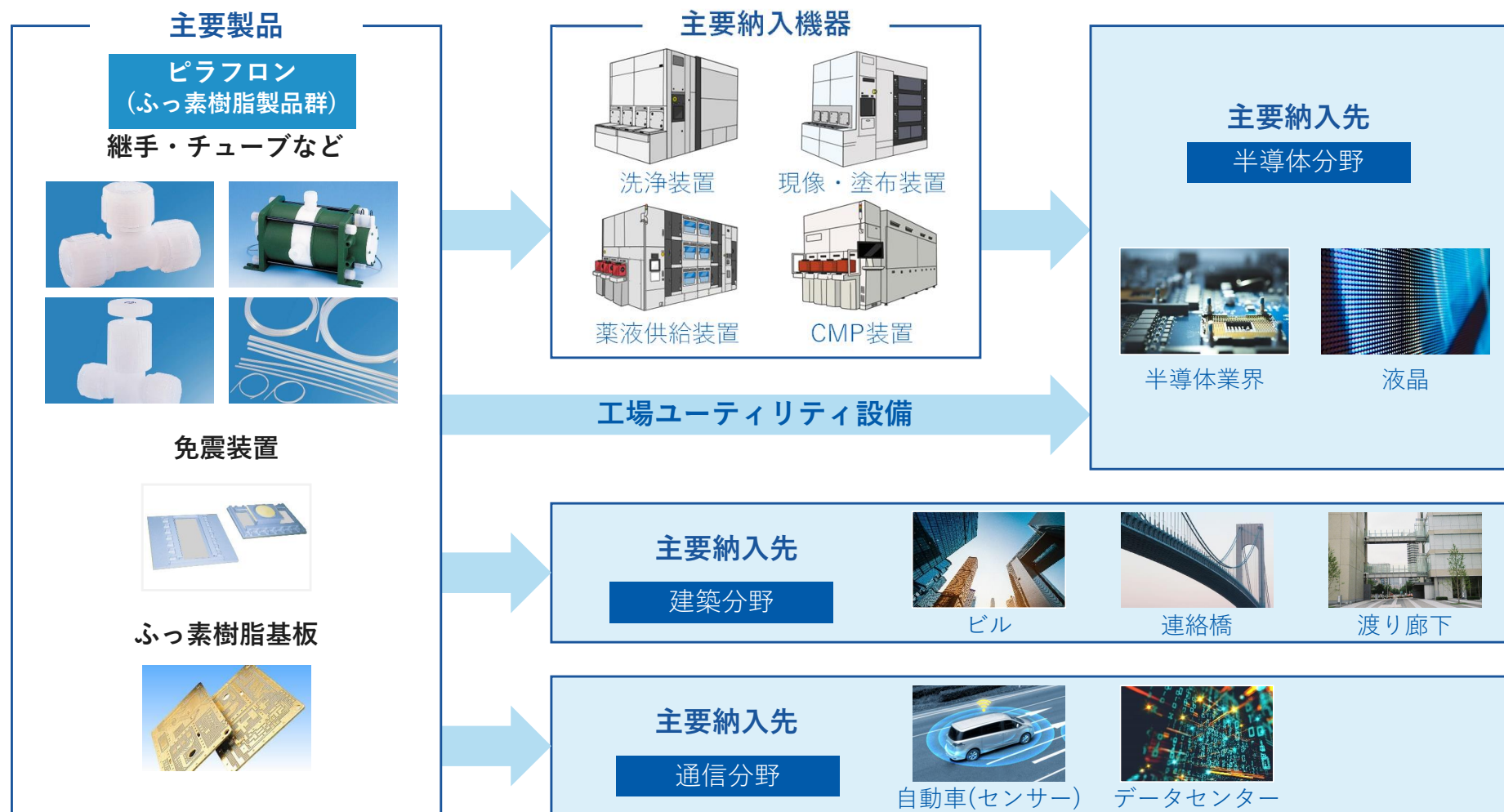
半導体・エネルギー・化学など様々な領域で、
あらゆる流体を制御して、暮らしと環境の安全・安心に貢献しています。



電子機器関連事業 主要な製品と主な納入先

ふっ素樹脂の特性である「クリーン性能」・「耐薬品性」・「耐熱性」・「低摩擦性」を活かした製品群

ふっ素樹脂製の継手・チューブ等は、多様な薬液に影響されないため、半導体の基となるシリコンウエハの洗浄装置に用いられます。低摩擦性を応用し、建物から地震の揺れを逃がす免震装置に用いられています。



産業機器関連事業 主要な製品と主な納入先

メカニカルシール・グランドパッキン

高温・高圧の過酷な条件で流体の漏れを止める装置で、石油精製・化学プラント・発電所などのポンプやバルブ等で使用されています。

ガスケット

配管と配管の接続部で流体を制御する機能部品であり、自動車の排ガス装置にも使用されています。

主要製品

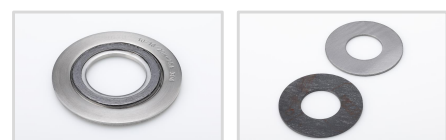
メカニカルシール：M



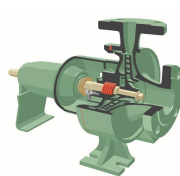
グランドパッキン：G



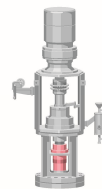
ガスケット：V



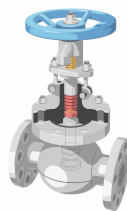
主要納入機器



ポンプ



攪拌機



バルブ



CMP装置

主要納入先



電力
(M/G/V)



化学プラント
(M/G/V)



半導体
(M)



社会インフラ
(M/G/V)



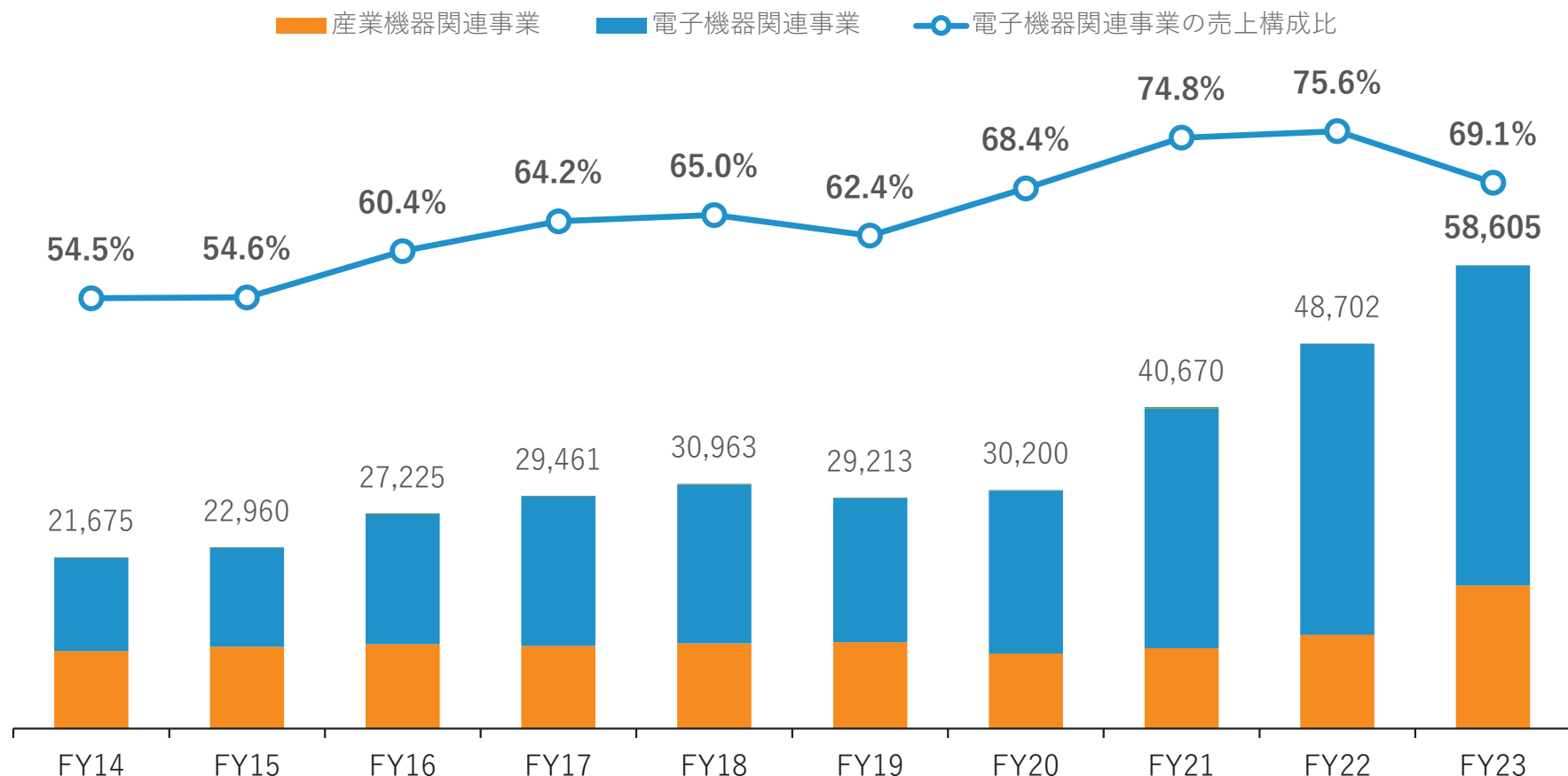
自動車
(V)
(内燃機関、マフラー等)

メンテナンス

セグメント別売上・構成比の推移

- 電子機器関連事業の売上構成比は、高い市場シェアを維持しながら、市場とともに成長を続けた結果、2014年度の54.5%から2023年度の69.1%まで大幅にアップ。
- 産業機器関連事業の売上高は、底堅い補修（メンテナンス）需要もあり事業基盤の安定化に寄与。2023年度はM&Aにより事業規模を拡大し、セグメントバランスの取れた経営に前進。

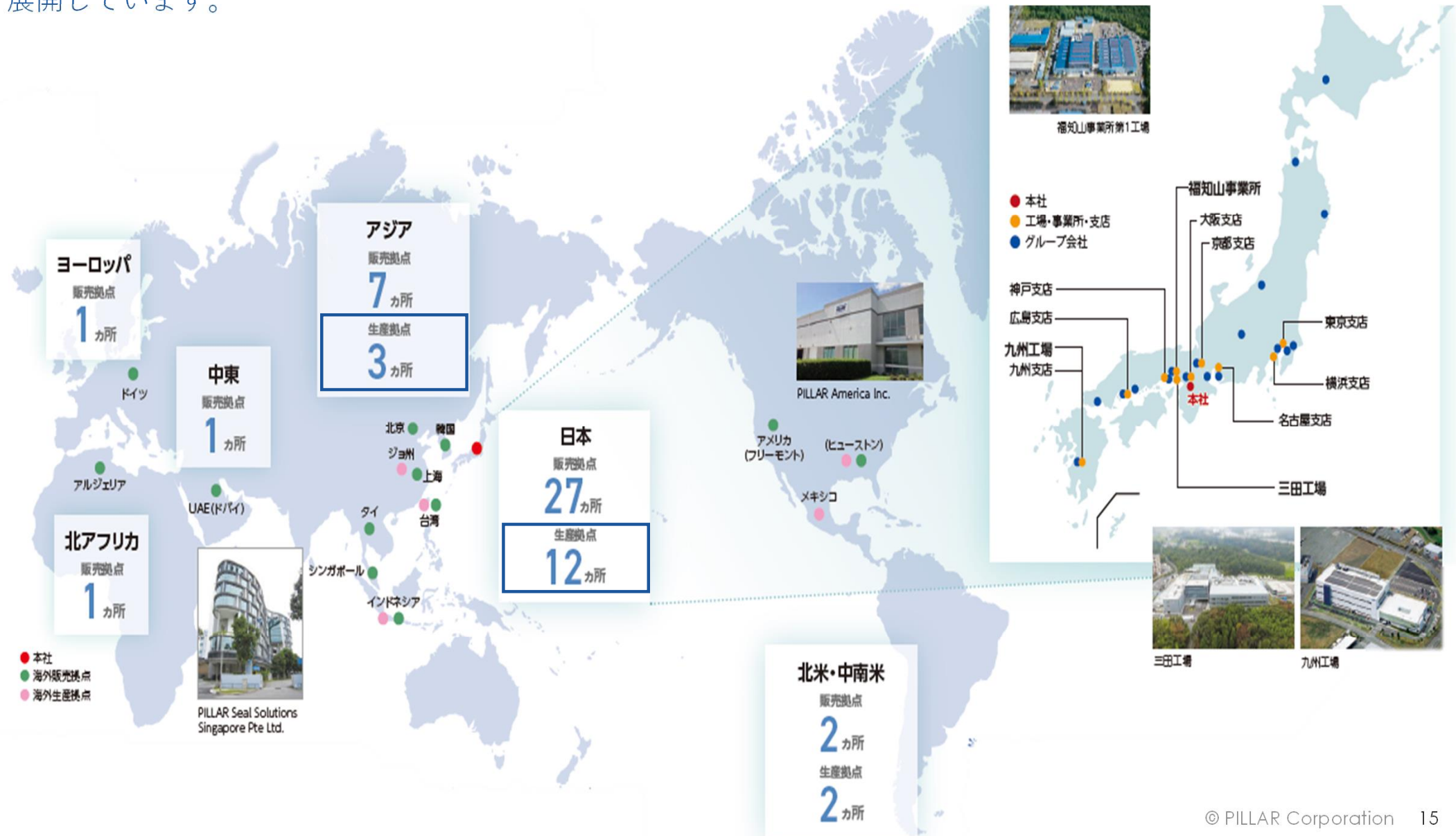
（単位：百万円）



グループネットワーク

●世界をフィールドに、技術の架け橋となります

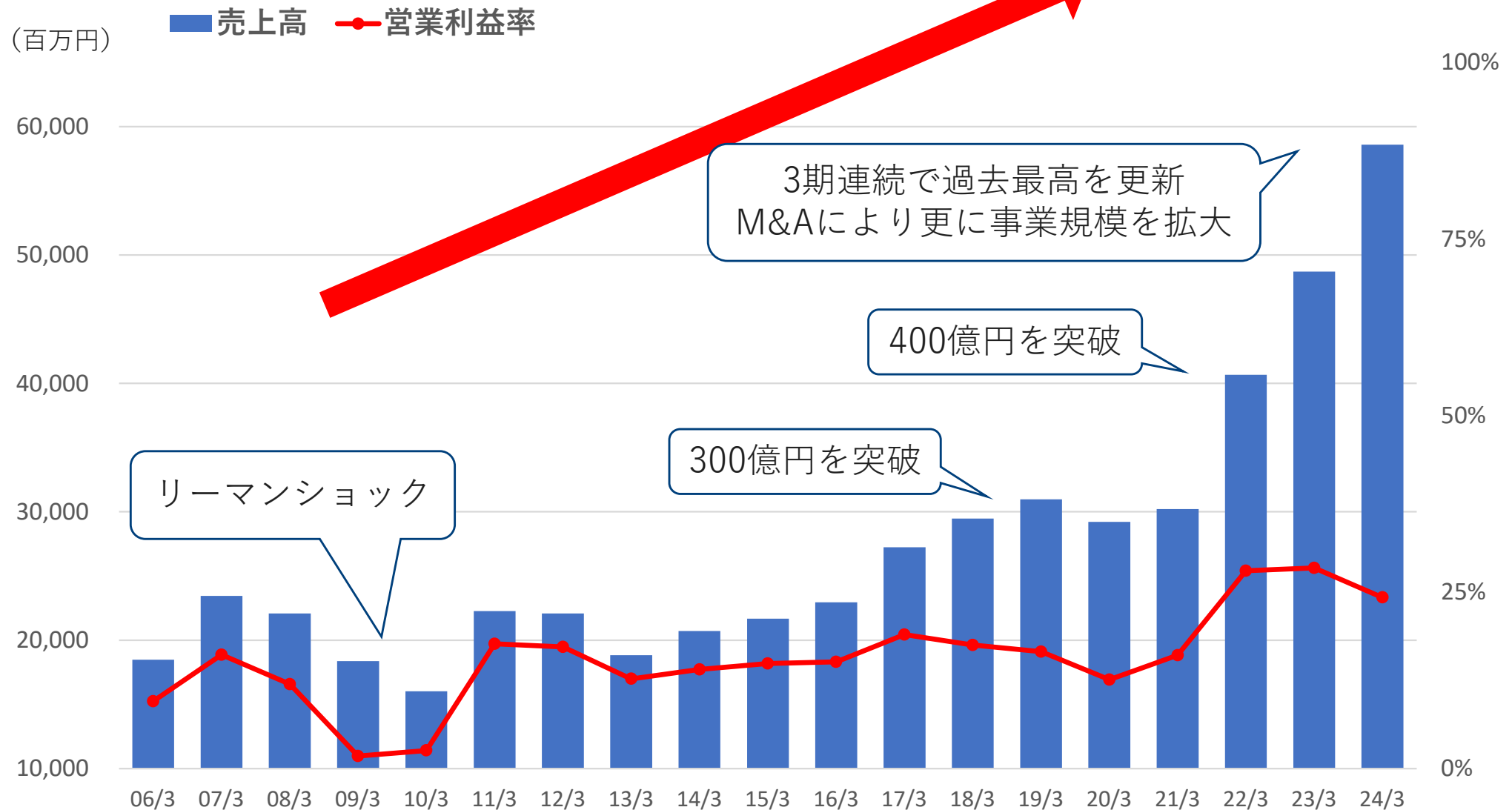
当社グループは、1980年に初の海外拠点としてKorea Pillar Packing CO., Ltd.（現 PILLAR Korea CO., Ltd.）を設立したのを皮切りに、グローバル化を推進してきました。現在では、世界の11の国と地域で事業活動を展開しています。



02

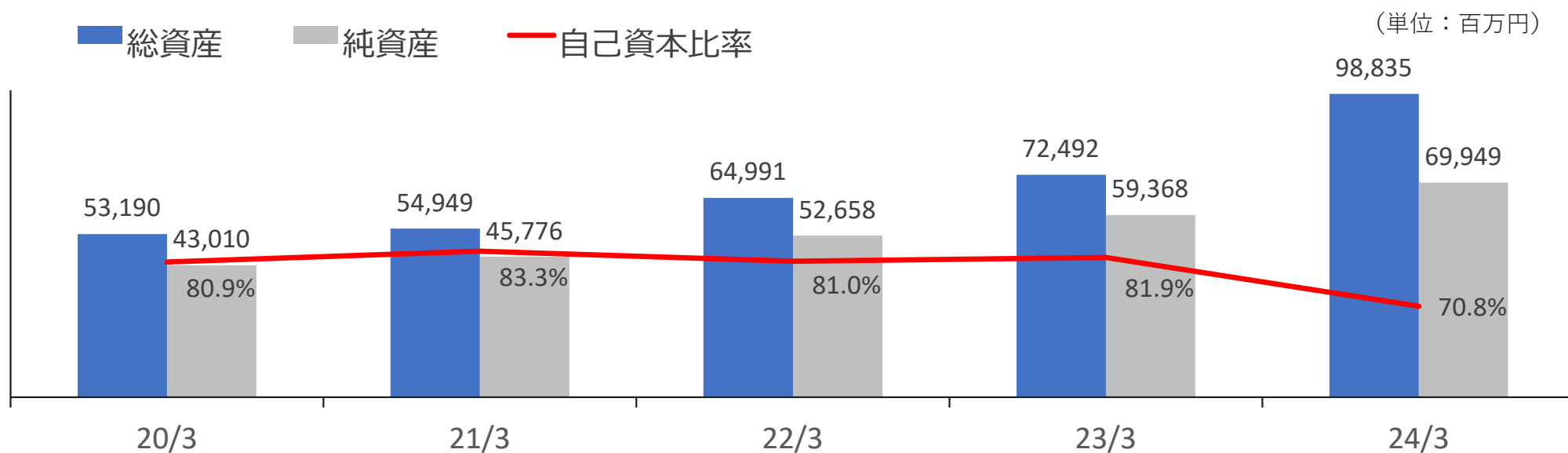
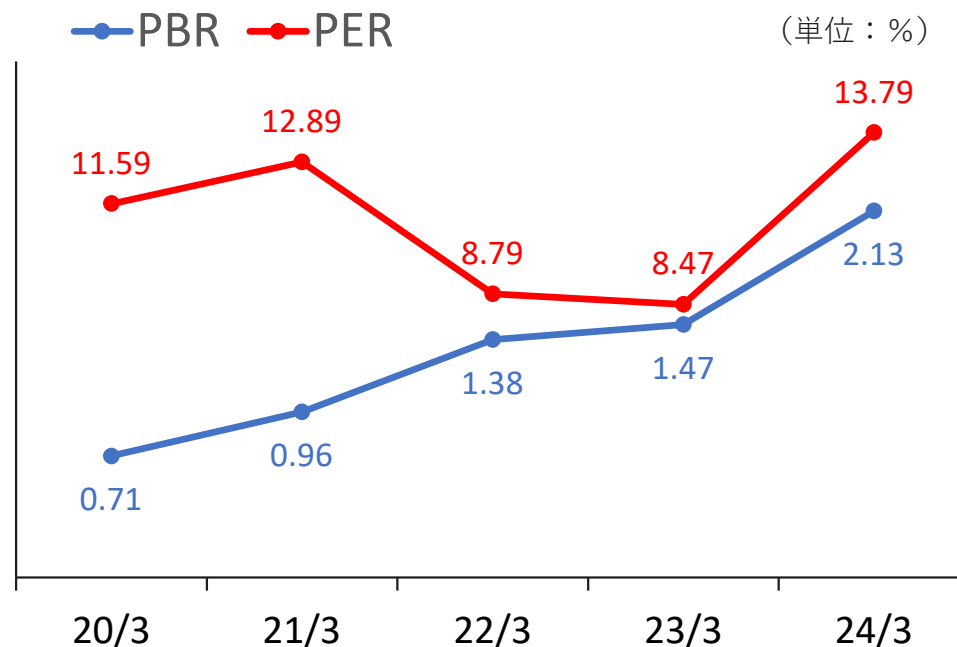
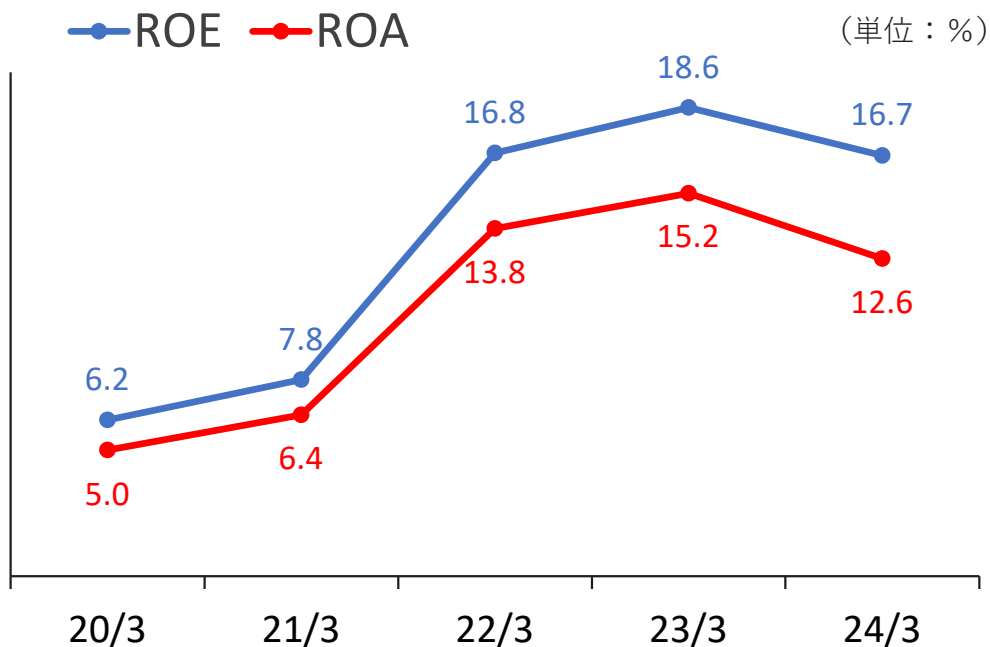
業績推移・業績予測・中期経営計画

長期業績の推移



安定した売上成長を実現しながら、高水準の利益率を維持

経営指標/財政状態の推移



2025年3月期業績予測及び中期経営計画

(:過去最高)

連結

(単位:百万円)	BTvision22 (前中計)	One2025 (現中期経営計画)					FY25通期 最終年度目標
	FY22実績	FY23実績	前年比	FY24通期予想		前年比	
	①	②	FY23-FY22 (②-①)	当初 ③	修正 ④	FY24-FY23 (④-②)	
売上高	48,702	👑58,605	+9,903	62,000	57,000	-1,605	66,000
営業利益	13,842	👑14,206	+364	13,000	11,000	-3,206	17,000
営業利益率	28.4%	24.2%	-4.2p	21.0%	19.3%	-4.9p	25.7%
ROE	18.6%	16.7%	-1.9p	10%以上 (*)		—	10%以上 (*)
配当性向	30.0%	34.4%	+4.4p	30%以上		—	30%以上
成長投資	(3ヶ年累計) 3,715	(3ヶ年累計) 25,000					

セグメント別

電子機器関連事業

売上高	36,819	40,475	+3,656	43,700	38,700	-1,775	48,000
営業利益	11,759	11,255	-504	10,500	9,000	-2,255	14,500

産業機器関連事業

売上高	11,844	18,093	+6,249	18,300	18,300	+207	18,000
営業利益	2,059	2,928	+869	2,500	2,000	-928	2,500

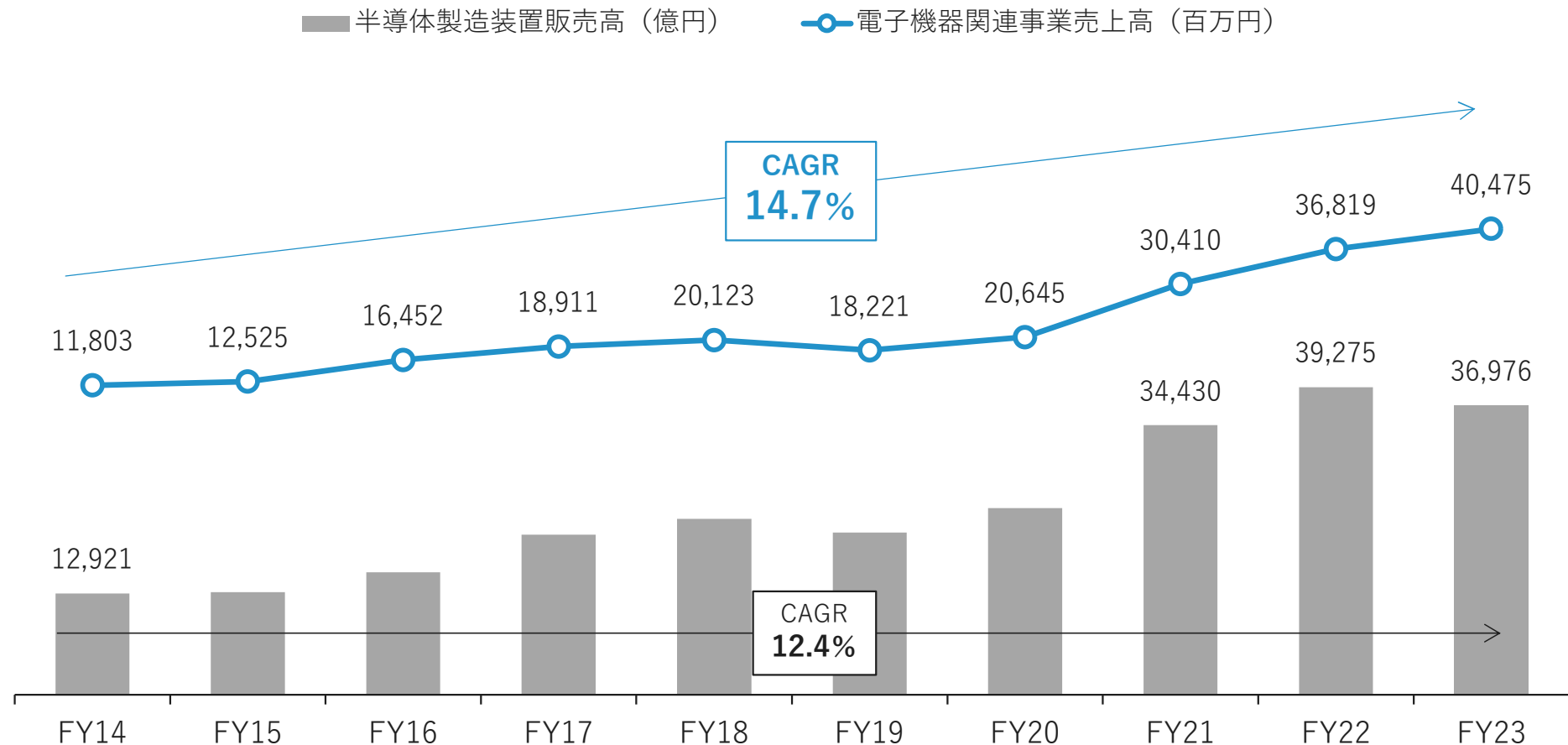
(*)目標は10%以上としつつも、資本コストの上昇を受け当面は13~15%の水準を目指す

企業価値の更なる向上に、 事業と組織の変革・変質を推進

1	コア事業の進化	コア事業領域の更なる競争力強化だけでなく、コア技術による領域拡大に伴う成長の実現、市況に左右されない進化を経て、提供する経済価値をさらに拡大成長
2	グローバル競争力の強化	独自性の高い基盤技術の展開と、エリア特性への対応力を強化し、グローバルシェアを拡大
3	新規事業基盤の創造	半導体市場や水素・アンモニア等の成長市場において独自技術やM&A、産学連携を通して新たな事業基盤を創造
4	サステナブル経営の発展	ESG施策に加え、人材への投資と生産性向上等に寄与するDXを活用することでサステナブル経営の更なる発展
5	成長を支える財務戦略	キャッシュフロー創出力を高め、更なる成長への投資と配当性向30%以上を目標とした成長をけん引する財務戦略の推進

電子機器関連事業の成長ストーリー

- 半導体製造装置市場は、2014-2023年度までCAGR12.4%の成長
- 当社の電子機器関連事業売上高は、2014-2023年度までCAGRが14.7%で、市場のCAGRを上回る
- これは、半導体市場の拡大に伴い、当社がシェア90%を占める半導体洗浄装置向け需要の高まりが背景。



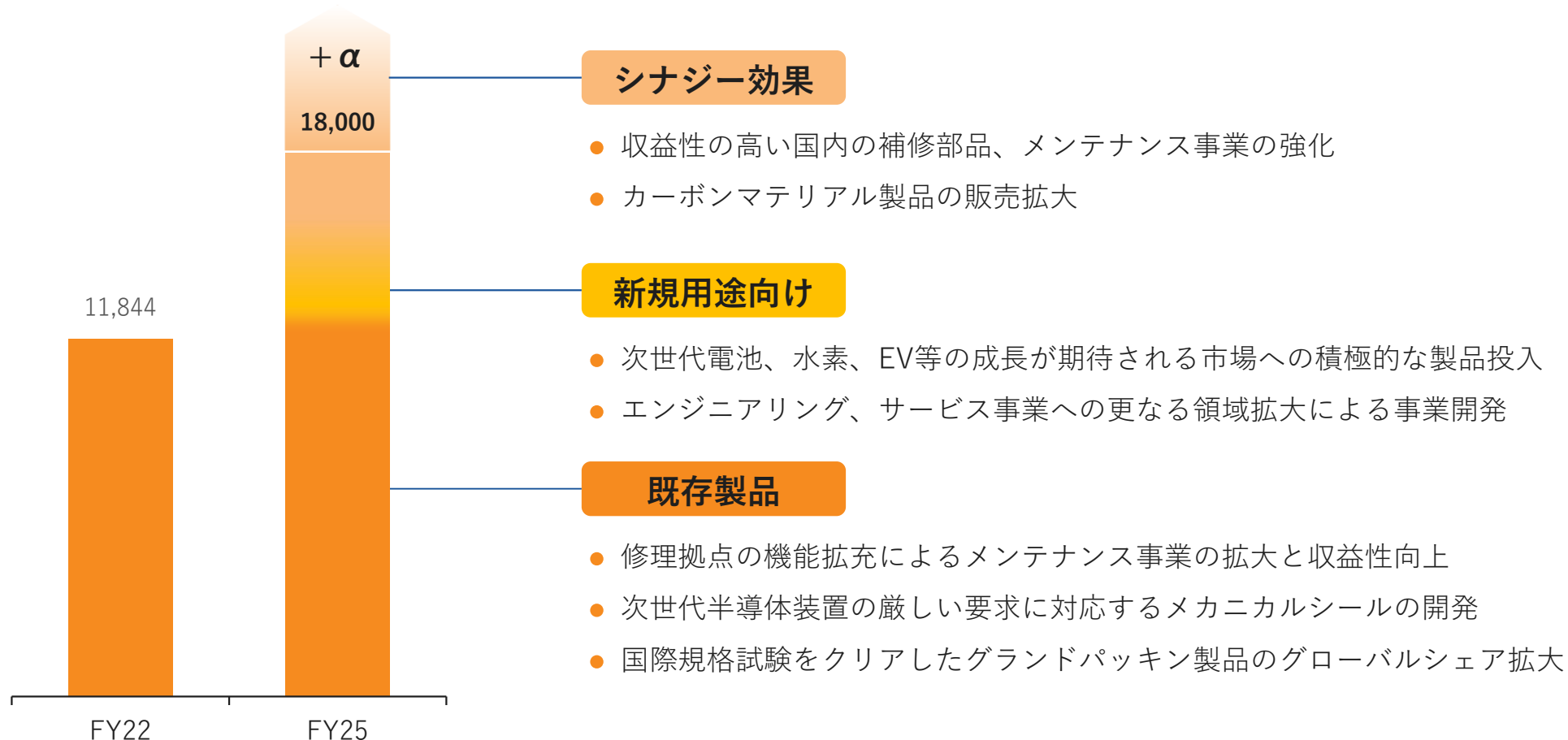
電子機器関連セグメント 事業施策の進捗

	2024年3月期の成果	今後のアクションプラン
更なる競争力向上に向けた基盤強化	● 福知山第2工場が計画通り竣工・稼働し、市場の要求に応える生産能力が向上 ● 新たなフッ素樹脂の調達先を開拓	● 半導体市況に応じ最大で生産能力を1.8倍まで拡大 ● 生産の効率化・自動化推進による競争力の強化 ● 再生材の内製化などサプライチェーンを強化し供給責任を果たす
既存市場・製品の強化	● ジョ州ピラーでの半導体市場向け生産品目拡大及び北京事務所の開設 ● 欧米大手半導体装置メーカーの新型装置に標準部品として採用 ● 半導体工場や公共施設への免震装置採用	● 中国市場における新規顧客の開拓 ● 清浄度向上で差別化する商材開発 ● 積極提案や供給体制増強による欧米市場での取引拡大
新規事業の創出	● フッ素樹脂基板・センサーの開発・試作 ● 医療・医薬市場など新規市場への参入に向けた製品開発・PR	● フッ素樹脂センサー製品の上市 ● 5G基地局・データセンター向けフッ素樹脂基板の開発継続 ● PFAS規制を見据えた新製品の開発

産業機器関連事業の成長ストーリー

- 精密機械装置用メカニカルシール（ロータリージョイント）を主力製品の1つとして、更なるシェア獲得・シェア拡大を目指す
- 「脱炭素」に向けたクリーンエネルギーへの転換が加速する中、水素・EV・SAFなどの新市場を中長期的な事業機会と捉え、スピード感を伴う製品開発を進める方針
- タンケンシールセーコウグループ化によるシナジー効果を最大限に生み出し、市場シェアの向上、業績拡大を図る

売上構成成長イメージ(単位：百万円)



	2024年3月期の成果	今後のアクションプラン
更なる競争力向上に向けた基盤強化	● (株) タンケンシールセーコウをM&Aによりグループ化し事業規模を拡大 ● 技術者の英知を集結する三田イノベーションセンター（R&Dセンター）が竣工 ● 生産工程の見直しほか、自動化・省人化による製造コスト削減への取組み推進	● クロスセル・材料一括調達などタンケンとのシナジー最大化を目指す ● AI・DXを活用した製品開発の加速化 ● 自動化設備・システムの導入により、更なる生産プロセス改革・効率化に邁進
既存市場・製品の強化	● ジョ州ピラーでの半導体市場向けRJ試作 ● メカニカルシール状態監視用IoTデバイスの開発 ● PFASフリーパッキンなど環境貢献型製品の開発・上市	● ジョ州ピラーにおけるRJ生産体制構築 ● 事業所統合などタンケンとの協働による営業活動強化 ● グローバル販売力の強化とプレゼンス向上
新規事業の創出	● 水素・EV・次世代電池等の市場調査と開発推進 ● イノベーションセンター活用による、脱炭素社会に向けたシール技術の向上 ● 新たな保守・メンテナンス契約サービスを開始し顧客を囲い込み	● 液体水素環境下での試験装置導入による水素市場向け製品の開発加速 ● SAFなど新たな市場参入に向けた販売促進強化 ● 電子機器関連事業で培った射出成形技術を活用したEV向け部品の開発・上市

主なTOPICS① 福知山第2工場（23年9月竣工）

所在地 京都府福知山市（長田野工業団地）

主要生産品目 電子機器関連製品（継手製品）

成長戦略 半導体市場の成長に応じた生産能力の大幅アップ（MAX80%増）
＊敷地内には同規模工場を更に3棟建設可能な拡張エリアを有す
自働化・省人化設備の導入により更なるコスト競争力を強化
顧客からの厳しい品質要求への対応

CASBEE® Sランク（素晴らしい）取得



自動倉庫

※CASBEE（建築環境総合性能評価システム）

国交省が主導し、建築物について省エネを始め地球や周辺環境に配慮しているかなどを評価するシステム

S・A・B+・B-・Cの5ランクで評価される。

主なTOPICS② 三田イノベーションセンター (23年10月竣工)

所在地 兵庫県三田市(三田工場内)

成長戦略

多様な技術者の衆知結集による総合知の創出と活用
組織を横断した複合技術による卓越した製品開発力を強化
産官学連携やオープンイノベーションによる持続的価値の共創

CASBEE® Aランク (大変良い) 取得



- ✓ 昨年11月に、福知山技術部門を三田イノベーションセンターに集約
- ✓ エンジニア間の部門を超えたコミュニケーションの活性化

主なTOPICS③ PILLARグループ 株式会社タンケンシーラセーコウ 伊那新工場建設

所在地	長野県伊那市東春近
敷地面積	21,549 m ²
延べ床面積	6,435 m ² （予定）
投資総額	43 億円（予定）
主な生産品目	シール製品向けカーボン摺動材、カーボン製品
竣工	2027年1月（予定）



伊那工場 イメージ写真



優れたカーボン製品

- ✓ カーボン製品の需要増加を見据え、安定的な生産体制の確立
- ✓ 先鋭的なカーボンの研究開発や製品製造の発展を図り、地域社会へ貢献

主なTOPICS④

「健康経営優良法人 2024」の認定

- ✓ 2年連続で、大規模法人部門の「健康経営優良法人 2024」に認定
- ✓ 従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいることが評価されました



「第73回 日経広告賞」受賞

- ✓ 日本経済新聞社主催「第73回 日経広告賞」において素材・機械・エネルギー部門で「優秀賞」を受賞
- ✓ 「100年やって、この知名度。」及び「一流の流れをつくる。」の2作品で高い評価をいただきました



(2024年7月1日 日経朝刊掲載)



(2024年5月22日 日経朝刊掲載)

03

株主還元

株主還元

【当社WEBサイト】
配当・株主優待

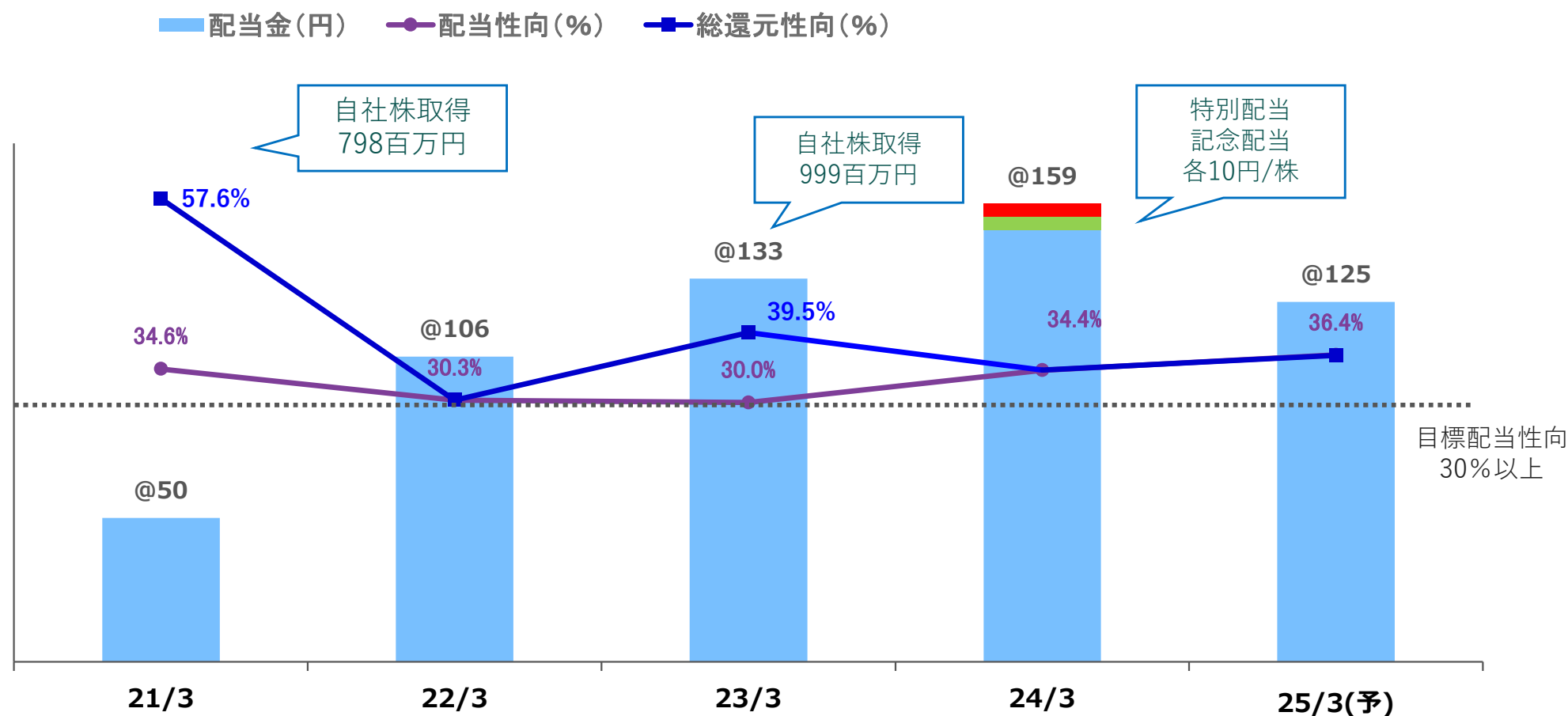


PILLAR
CLEAN SAFETY FRONTIER

- 配当方針：安定的かつ継続的な配当とし配当性向30%以上を目標
- 配当予想：年間125円/株（連結配当性向36.4%）

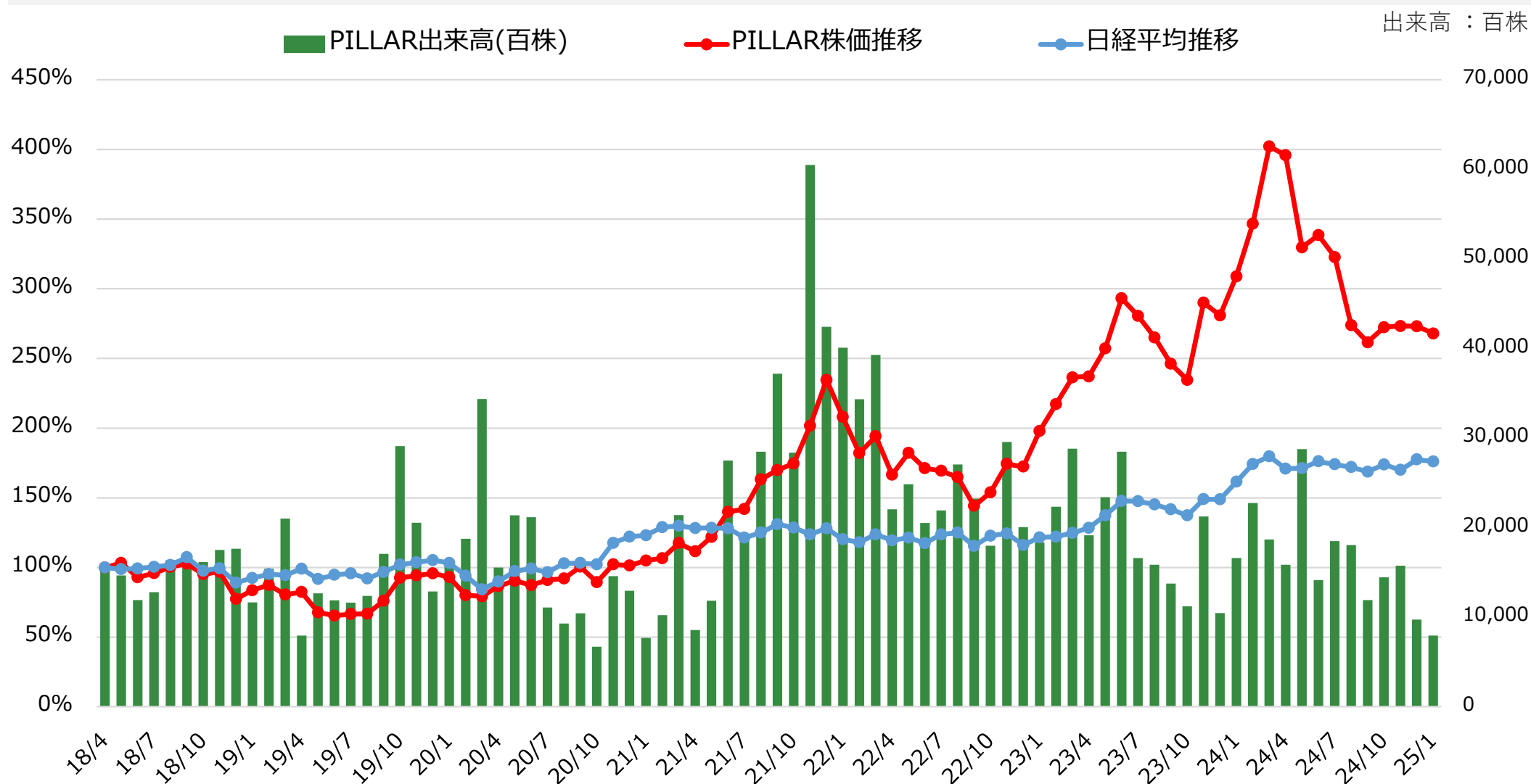
（単位：円）

一株当たり当期純利益・配当金・配当性向



株価ファンチャート

- 2018年4月を起点に2025年1月までの株価の伸び率
- 日経平均株価を大きくアウトパフォーム



株主優待

一定の株式を保有していただいている株主様に感謝するとともに、より多くの株主様に当社株式を中長期的に保有していただくことを目的として、株主優待制度を導入しております。

オリジナルQUOカード進呈



企業情報サイト「**知って得する株主優待**」にて当社の優待情報を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

<https://yutai.net-ir.ne.jp/company/6490/>



保有株式数／継続保有期間	3年未満	3年以上
100株～500株未満	1,500円	2,000円
500株～1,000株未満	2,000円	3,000円
1,000株以上	3,000円	4,000円

(注)：保有年数3年以上とは、毎年3月末日及び9月末日現在の株主名簿に同一の株主番号が連続して7回以上記載または記録されていること

利回り シミュレーション

■100株を3年以上保有した場合

	金額
株価（2025/2/12終値）※1	3,750円
最低投資金額（100株）	375,000円
年間配当金（25.3期予定）	12,500円
株主優待（年1回/3年以上保有）※2	2,000円
年間配当金＋株主優待 （トータル利回り）	14,500円 (3.87%)

※1：2025年2月12日終値ベース

※2：3月31日時点の株主名簿に記載された1単位（100株）以上保有の株主様が対象

お知らせ

野村IRの企業情報サイトネットアイアールの「アイアールmagazine」コーナーにて「IRレポート」及び「トップの素顔」を掲載中。
こちら是非ご覧ください！

<https://ir-magazine.net-ir.ne.jp/special/detail/id=10727>



IRレポート

<https://ir-magazine.net-ir.ne.jp/sugao/detail/id=10726>

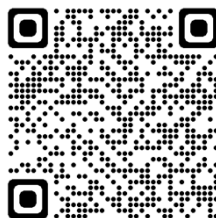


トップの素顔

本日はありがとうございました

当社WEBサイトのご案内

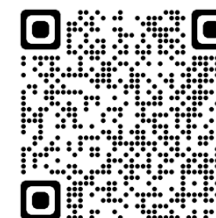
トップメッセージや中期経営計画、最新のIR資料、株式関連情報などを掲載しております。ぜひご覧ください。



<https://www.pillar.co.jp/ja/ir/>

会社・製品紹介動画のご案内

会社案内および製品紹介動画を当社WEBサイトで公開しております。こちらもぜひご覧ください。



<https://www.pillar.co.jp/ja/about/movie/>

- ・本資料には、将来の業績に関する予想、計画、見通しなどの記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
- ・将来の業績は、主要市場の経済情報、製品需要の変動、為替相場の影響、国内外の各種規制、会計基準・慣行等の変更により、大幅に異なる可能性があることをご留意ください。
- ・本資料は情報の提供を目的として作成したものであり、本資料によって何らかの行動を勧誘するものではありません。

【IRに関するお問い合わせ先】

株式会社PILLAR 経営企画部

<https://www.pillar.co.jp/ja/inquiry/ir/>

